

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	C区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃしょーまんしっぷ	団体ウェブサイトURL	
	有限会社ショーマンシップ	<a href="https://showman.jp/">https://showman.jp/</a>	
代表者職・氏名	代表取締役・仲谷一志		
制作団体所在地	〒 810-0063	最寄り駅(バス停)	福岡市地下鉄 唐人町駅
	福岡県福岡市中央区唐人町1-10-1カランドパーク203		
電話番号	092-716-3175		
ふりがな 公演団体名	げきだんしょーまんしっぷ	団体ウェブサイトURL	
	劇団ショーマンシップ	<a href="https://showman.jp/">https://showman.jp/</a>	
代表者職・氏名	座長・仲谷一志		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	平成11年2月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 仲谷一志 取締役 市岡洋・生田晃二 企画制作部長 宮崎果林	役員3名 制作スタッフ5名 役者15名 【加入条件】毎年オーディションを行い、劇団理念に適合する優秀な人材のみ加入可能。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	宮崎果林
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	田村真理
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)			

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>平成 6年10月 「劇団ショーマンシップ」設立。 平成11年 2月 「有限会社ショーマンシップ」として法人化。 平成12年 4月 「唐人町商店街(福岡市中央区)」に拠点を移し「甘棠館Show劇場(客席84席)」の運営を始める。 平成16年 4月 「日本児童・青少年演劇劇団協同組合」に加盟。 平成21年 4月 「ユメニティのおがた(福岡県直方市)」とレジデンスカンパニー契約を結ぶ。 毎年、劇場公演・直方市内の小中学校でのアウトリーチ事業を始める。(継続中) 平成26年12月 創立20周年記念公演「亀井南冥伝～金印の謎を生んだ男～」を博多座にて公演。 令和元年 12月 創立25周年記念公演「THE NIWAKA～博多の町の芸処～」を博多座にて公演。 令和 2年 2月 「ないた赤おに」の脚本を日本語と英語で織り交ぜた作品「The Red Monster Cried」を甘棠館Show劇場にて公演。 令和 2年 3月 「福岡市民文化活動功労賞」受賞。 令和 3年 4月 「あしや夢リアホール(遠賀郡芦屋町)」の運営を芦屋町より委託される。 令和 4年 2月 「ないた赤おに」を完全英語版とした「The Red Monster Cried」を甘棠館Show劇場にて公演。 令和 6年 3月 「福岡県文化賞」受賞。</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>平成14年度より学校公演実績あり 累計 約800公演 (直近) 平成30年度 「ノートルダム物語」 4校 「生きる！～十五少年漂流記より～」 4校 「ないた赤おに」 16校 「九州の民話めぐり」 1校 「インプロショー」 2校 「カラカラ王子とぴちやぴちや姫」 30園 計:57公演 令和元年度 「ノートルダム物語」4校 「生きる！～十五少年漂流記より～」11校 「ないた赤おに」19校 「砂漠の王子の冒険」5校 「インプロショー」2校 計:41公演 令和2年度 「ノートルダム物語」1校 「ないた赤おに」6校 「砂漠の王子の冒険」1校 計:6公演 令和3年度 「ノートルダム物語」14校 「生きる！～十五少年漂流記より～」5校 「ないた赤おに」23校 計:32公演 令和4年度 「ノートルダム物語」20校 「生きる！～十五少年漂流記より～」6校 「ないた赤おに」5校 「The Red Monster Cried」5校 計:36公演 令和5年度 「ノートルダム物語」20校 「生きる！～十五少年漂流記より～」2校 「ないた赤おに」19校 「The Red Monster Cried」3校 「砂漠の王子の冒険」20校 「大正くるま浪漫」2校 計:64公演</p>		
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>平成18年度 「なりきりオウムとほりきりサーカス団」 福岡県立福岡聴覚特別学校 平成18年度 「ないた赤おに」 福岡県立筑後特別支援学校 平成19年度 「なりきりオウムとほりきりサーカス団」 福岡県立田主丸特別支援学校 平成20年度 「なりきりオウムとほりきりサーカス団」 福岡県立川崎養護学校 平成21年度 「ないた赤おに」 福岡県立小郡特別支援学校 平成21年度 「ないた赤おに」 福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」 平成22年度 「笑劇！黒田騒動」 特別支援学校「北九州高等学園」 平成23年度 「ノートルダム物語」 大分県立宇佐支援学校 平成24年度 「ノートルダム物語」 滋賀県立草津養護学校 平成24年度 「ノートルダム物語」 三重県立豊学校 平成26年度 「ないた赤おに」 福岡県立直方養護学校 平成30年度 「ないた赤おに」 福岡県立小郡特別支援学校 令和 元年度「ないた赤おに」福岡県立南福岡特別支援学校 令和4年度「ないた赤おに」兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校 令和5年度「ないた赤おに」福岡市立福岡中央特別支援学校</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=uuaXalMtmLY&amp;t=481s">https://www.youtube.com/watch?v=uuaXalMtmLY&amp;t=481s</a></p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

別添	なし
----	----

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団ショーマンシップ】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	
企画名	笑って！泣いて！心揺さぶる物語を子供たちへ「ないた赤おに」			
企画のねらい	<p>道徳の教材としても馴染みのある「ないた赤おに」は「真の友情」や「真の融和」というテーマと共に、将来、子ども達が直面するであろう『社会矛盾』までを描いた作品である。本作は原作のテーマをより子供たちに伝わる事を念頭に置きながら、演劇という舞台芸術が小学生にとって楽しいものであるという認識になることを狙い、『笑い』『涙』『感動』という舞台の魅力が満載している作品として制作した。その上で「鬼に生まれてきたけど、人間と仲間になって仲良く暮らしていきたい」という希みを持つ『赤おに』が「鬼は乱暴者である」という偏見差別から自由になれず、その願いをかなえるために友人の『青おに』を失ってしまった悲劇」という視点を丁寧に描いた。本作は「青おに」が単に「親切なともだち思いのえらい鬼」という表面的なとらえ方で終わることなく、『なぜ青おにが赤おにの為に、悪者になって犠牲になり赤おにの前から消えていかなければならなかったのか』という問題まで踏み込んでいる。つまり「無意識の偏見・差別」が生んだ悲劇であることを、しっかりテーマにおいて制作し子ども達に伝えることを狙いとされている。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>『日本のアンデルセン』『日本児童文学会の三種の神器』と呼ばれた浜田廣介の「ないた赤おに」を原作に忠実に舞台化。原作の持つ言葉のリズムを活かし、オリジナルの歌とダンスにて演出。鬼の衣装や舞台装置など、視覚的な要素に芸術性を持たせ『友情』や『思いやり』というテーマと共に、将来子供たちが直面するであろう『社会矛盾』までも感じさせる本作品は上演後「教室」や「家庭」での「語らい」のテーマになり得る作品である。</p> <p>さらに、『赤おにの住む家』『村の家』『青おにの住む森』を舞台上の転換でスピーディに見せる舞台装置や『木こり役』のコメディシーン、主人公『赤おに』の心情を歌と踊りで表現するなど舞台芸術の魅力詰め込んだ創りでありながらコンパクトに移動できる本作品は、本事業の目的である、すべての子供たちの豊かな感性を育み芸術鑑賞能力の向上につながり、文化的な地域格差の解消の促進に繋がることを確信している。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>【歌「お祭り気分」に参加】</p> <p>赤おにが人間と仲良くなったシーン、物語の中で主人公「赤おに」が一番幸せを感じているシーンを歌と踊りで表現する「お祭り気分」を会場の子どもたち全員と役者が一体となり、唄・踊り・ボディーパーカッションで共演。体育館が喜びであふれる瞬間を共有する。</p> <p>(ワークショップ・当日の オープニングアクトで指導)</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	～300人	
		鑑賞人数目安	～300人	
本公演演目	<p>■演目           ないた赤おに        《原作 浜田廣介》</p> <p>■脚色・演出    仲谷一志</p> <p>■音楽           山浦弘志</p> <p>■振付           近藤勇人</p>			
原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【あらすじ】</p> <p>山の崖に住む「赤おに」は、村の人たちと仲良くなりたと思っていました。ところが、人間たちは怖がって「赤おに」には近づいてきません。そこで「赤おに」は、『ココロノ ヤサシイ オニノウチデス。ドナタデモ オイデクダサイ。オイシイ オカシガ ゴザイマス。オチャモ ワカシテ ゴザイマス。』と立て札を立てました。それでも人間は「赤おに」がだましているのだと思い、近づいてきません。「赤おに」はとても悲しみその立て札を壊してしまいました。</p> <p>すると、ひょっこり友達の「青おに」が遊びにやってきました。そして人間たちと仲良くなれる方法があると言うのですが……。</p> <p style="text-align: right;">公演時間   50   分</p>			
出演者	<p>赤おに   : 中村 豪志</p> <p>青おに   : 相川 満</p> <p>語り     : 岸 里美</p> <p>与作     : 進藤 祐行</p> <p>喜作     : 宝伊 謙斗</p>			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p><b>脚色・演出 仲谷一志</b></p> <p>日本児童・青少年演劇劇団協同組合 理事。日本演出者協会会員。劇団旗揚げ後、ほとんどの作品の制作にプロデューサー・演出家・俳優として携わる。「ないた赤おに」「みにくいアヒルの子」「アラジンと魔法のランプ」など、子供向けの作品の脚色・演出を行う。テレビ・ラジオの出演も多く、令和6年度は担当ラジオ番組が『ギャラクシー賞』『民放連盟賞』を受賞した。</p> <p><b>音楽 山浦弘志</b></p> <p>数々のCM曲を手掛ける傍ら、舞台の音楽も手掛ける。児童劇団の音楽制作を25年以上手掛け、子供たちに音楽の素晴らしさを教えてきた。そこから世界に羽ばたき活動する卒団生が数多くいる。(株NTTドコモ(キッズプランでCM音楽担当)九州国立博物館(2006年制作の国内外向けDVDですべての音楽を担当)北九州市(2012年市制PR用VPですべての音楽を担当))</p> <p><b>エキスパートスタッフ 生田晃二</b></p> <p>劇団座付き作家として、多くの作品を発表している傍ら、28年間の演劇活動で身に着けたスタッフワークは、「音響」「照明」「舞台」という枠を超えている。本作にエキスパートスタッフとして帯同し、音響・照明等のオペレーションを一人で行うことによって通常公演と同様に質の高い公演を行う事が出来る。</p>			

<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む</p>	<p>出演者: 5 名 スタッフ: 1 名</p> <hr/> <p>合 計: 6 名</p>	<p>運搬</p>	<p>積載量: 2 t 車 長: 5 m 台 数: 1 台</p>
--	---	-----------	---

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9:00	9:00～12:00	13:00～13:50	0	14:00～15:00	15時00分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月
	10日			11日
	10月	11月	12月	1月
	22日	18日	17日	14日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計



体育館のステージにて舞台を組みます。  
舞台設置に必要な面積 横:7.2m以上 奥行:3.6m以上  
客席の真ん中に花道をつくります。

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)



人間と仲良くなりたい「赤おに」。しかし人間たちは怖がって逃げてしまいます。



友達の「青おに」に相談したところ、ある作戦を立てることにしました。



作戦は成功し、「赤おに」は人間たちと仲良くなることが出来ました。



作戦の後、「青おに」に会いに行った「赤おに」。「青おに」は手紙を置いて居なくなっていました。

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	原作の著作権
	該当事項がある場合	権利者名 日本文藝家協会	許諾確認状況	採択後手続き予定

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 劇団ショーマンシップ】

ワークショップのねらい	<p>ワークショップでは子供たちの好奇心を育み、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。事前に各学校の状況をヒアリング、さらに当日も「子供たちの声」を聞きながら進行していく。プロの俳優による読み聞かせで、「言葉による表現の魅力」「日本語の魅力」に気付くきっかけを作り、感想を発表することで子供たちの表現力・想像力の向上を図る。複数の子供たちと一緒に踊ることは、コミュニケーション能力の育成に繋がる。「語り役」が、ワークショップのファシリテーターとしても『児童』と近い距離をとることで、より作品を身近に感じテーマが伝わりやすくなる。また、舞台セットの一部(パネル)に絵を描き、それを本番で使用することにより、子供たちは「創る楽しさ」を体験する。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	～300人
ワークショップ実施形態及び内容	<p>①『インプロゲームを使ったアイスブレイク』 インプロゲームにて緊張感をほぐし、心のリラックスを図る。</p> <p>②『歌とボディーパーカッションの指導』 劇中、赤おにが村人と仲良くなったシーンにて踊る「お祭り気分」の振付を指導。本番では子供たちも一緒に踊る。(事前に学校に「お祭り気分」の音源を送付。)</p> <p>③『出演俳優による、原作「泣いた赤おに」の一部を読み聞かせ』 原作の紹介と浜田廣介の紹介 その後、語り役による絵本の読み聞かせを行い、心に残ったシーンの発表。</p> <p>④『作ってみよう！舞台セット！』 黒板シートを貼った草木パネルに、②の「読み聞かせ」からイメージした「おに」の住む森の絵を描く。完成したパネルは、本番の舞台セットとして使用。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加児童が多い場合 先生と話し合いの上、2回実施をするなど、児童さんがのびのびと実施できるようにする。</li> <li>・特別支援学校で実施する場合 先生と綿密に打ち合わせを行い、内容を一部変更するなど、児童さんが負担に思うことなく実施できるようにする。</li> </ul>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	あり
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名

劇団ショーマンシップ

】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p><b>①本事業に対する取り組み姿勢</b> 舞台芸術は、脚本家・演出家を始め、道具・照明・音響など多くのスタッフと俳優たちによって、創り上げる総合芸術である。ワークショップ、公演を通して、その魅力をお子たちに感じさせたい。 優れた舞台芸術に触れることは、お子たちの情操と想像力を育む上で大変効果的である。スタッフ・俳優とともにスクラムを組んで一つの舞台作品を創り上げることは、感動の共有とともに、発想力とコミュニケーション能力を養う上でも有効であり、それを現場で周知させる。 出演体験はお子たちの個性を認め、その個性をもって役を演じるという体験から、「自分らしさ」と「自身の存在意義」に気付くと同時に、共に創る「仲間・友人の大切さ」をも認識することができる。鑑賞する児童や先生方、保護者にとっても、お子たちの新たな一面と出会う貴重な体験となるに違いない。 以上のことを踏まえて、本事業の目的と趣旨に沿うべく、各々の分野のプロ(スタッフ・俳優)がそれぞれの特性を活かし創り上げた。 本作品の鑑賞と参加によってお子たちの発想力やコミュニケーション能力が養われ、将来の芸術家の育成や芸術鑑賞能力の向上にもつながる事を確信している。</p> <p>《スタッフの取り組み》 (脚色・演出)原作者・浜田廣介は坪田譲治、小川未明とともに「児童文学の三種の神器」とも呼ばれた存在。脚色・演出を担当した仲谷一志は執筆にあたり、当時の著作権継承者の浜田留美氏と協議しながら「原作に忠実」であることを柱に置いた。演出においては、初演より24年かけて現場の反応を受け進化してきた作品である。</p> <p>(音楽) 担当する山浦弘志は、クラシックから現代音楽まで幅広く精通しており、数多くの舞台音楽を創り続けている。多くの児童劇団への楽曲提供も行っており、お子たちの歌唱に向けた楽曲制作に大変長けている。</p> <p>《俳優の取り組み》 人前で演じるということは魅力的で刺激的である反面、お子たちにとっては緊張と恥ずかしさが伴う。そこでプロの俳優たちがお子たちに作品への理解を深められるように指導し、観ること、演ぶことの楽しさを伝える。「自分らしさ」の発見とともに、役を果たした達成感、創り上げた仲間への感謝、努力が報われる喜びを知り、大きな自信となって、公演後の学校生活にも大いに活かされると期待する。「自信を持って生きる」ことの大切さを伝えるべく、俳優たちは、日頃より学習・訓練に努めている。</p> <p><b>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</b></p> <p>※別添あり ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫(別添No.4-① 参照)</p>
--	--

別添	なし
----	----

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名

劇団ショーマンシップ

】

C区分で事業を実施するに当たっての工夫	<p><b>①離島・へき地等における公演実績</b></p> <p>平成17年度 から公演実績あり。 累計:25公演  (直近) 令和5年度「ないた赤おに」  日田市立津江小学校、えびの市立岡元小学校、延岡市立方財小学校、和泊町立和泊小学校</p> <p><b>②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫</b></p> <p>《特殊な事情がある地域での実施にあたっての工夫》  本作品「ないた赤おに」の舞台装置は主に「置きパネル」を使用している。仕込み、搬出は早く、最低限の道具での公演が可能なので特殊な事情がある地域でも対応できる。それでも会場の事情や運搬の事情で問題が生じる場合は、「布の書き割り」の使用や、学校に設置されているものを利用しての演出も工夫する。  また、天候、気候も含めて事前に学校側との打ち合わせを綿密に行い、公演及びワークショップをスムーズに実施する。</p> <p>《質を保つための工夫》  本作品「ないた赤おに」は、これまでも出演者5人とスタッフ1名という編成で約300ステージ上演してきた経験があり、あらゆる環境の中でも対応してきた実績がある。小班編成では削減されることの多い「照明演出」だが、本作は「音響」も「照明」も兼任できるエキスパートが帯同し離島やへき地の子供たちにも「照明演出」が施された舞台を提供する。</p> <p><b>③C区分応募における、費用面の工夫</b></p> <p>交通費、運搬費が削減できるように舞台装置をコンパクトに収納できる組み立て式・置きパネルを使用し、移動する。  音響・照明・舞台監督を一人で行えるエキスパートスタッフが帯同し人件費及び宿泊費等を削減している。  また、ワークショップと公演を同日に行うことにより、交通費・宿泊費を削減出来る。</p>
---------------------	---

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.4	【公演団体名	劇団ショーマンシップ】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>《ワークショップにおける工夫》 演劇への興味と、公演への出演及び鑑賞意識を高めるため、綿密な打ち合わせを行った上で、効果的な進め方を考え、実施校と協議し決定する。 本事業の主旨である「将来を担うすべての児童たちの豊かな感性を育む場を作ることを達成するために全児童の参加を呼び掛ける。 また、スムーズな進行と公演告知のため、劇中、全校児童が合唱する楽曲のCD音源と楽譜と公演作品のチラシを事前に郵送。事前に曲を聴いてもらうことでワークショップと公演への期待感も高めることができる。チラシに関しては、校内だけでなく地域の方の目に留まる場所への掲示を依頼し広範囲に周知され、事業の発展にも繋げる。</p> <p>《公演における工夫》 (搬入と仕込み) 事前に搬入経路、子供たちの登校の時間を学校側と確認し、安全に舞台装置等の搬入・仕込みを行う。</p> <p>(児童参加稽古、本番) 参加シーンの稽古を行う際、全員で協力し一つの舞台作品が創り上げられることの喜びを知り、その上で、役の必要性、つまり自分自身の存在意義も確認することとなり、それが責任感と自信につながっていく。本番を終えた子供たちはこの体験で自信と達成感を獲得し、今後の学校生活に活かされることを期待する。 特別支援学校で公演する場合、音の大きさを先生と確認。また、「オニ」に驚く児童さんもいるので、事前にメイクをした「赤おに」「青おに」役と児童さんが触れ合う時間を設ける。 (公演終了後のアンケート依頼) 公演終了後は、児童・先生方・保護者へのアンケートを依頼。公演の感想や公演終了後の子供たちの気持ちや学校生活の変化などの内容について書いてもらい、その意見を参考に、ワークショップや公演作品の質の向上に繋げていく。</p> <p>《経理・事務処理》 経理としては速やかな事務処理、帳簿管理を行うとともに本事業が滞りなくスムーズに実施出来るよう心がける</p>		